

第43号

(2022年11月15日発行)

発行：中央大学学員会 出版白門会

CONTENTS

(お名前は敬称略)

▽第23回定期総会報告	1
▽2023年新年会のお知らせ	1
▽白門太陽傳～戦いに挑んだ強者たち～(3)	2
「この胸の落雷～ジャンボ鶴田という旅路～」	
▽古谷一行君を悼む(志村昌也)	2
▽地図を通して知る東京第11回	2
▽白門同窓生の本	3
▽学員交歓	3
▽新役員挨拶	3
▽令和4年度役員	4
▽決算報告・新年度予算	4
▽告知板	4
▽編集後記	4

出版白門会の関連行事予定

- ①会報発行 11月15日
 - ②第22回能楽鑑賞会
12月10日(土)12時開場 13時開演
会場：国立能楽堂(渋谷区千駄ヶ谷4-18-1) / JR千駄ヶ谷駅より徒歩5分
狂言 内沙汰(うちさた) 佐藤 友彦(和泉流)
能 竹雪(たけのゆき) 武田 孝史(宝生流)
 - ③箱根駅伝復路応援
ゴール近くの中央大学応援団付近
※コロナ禍状況で中止の場合あり。
 - ④2023年新年会
1月20日(金)18時30分～
第1部 新春講演会 中川順一氏(1983年文学部卒)
第2部 懇親会
会場：出版クラブ(神保町)4階
会費：6,000円
※後日、出欠確認を兼ねたご案内をお送りいたします。
又は1頁下部のQRコードにてお申し込みください。
 - ⑤街歩き企画 5月ごろ
※詳細が決まり次第、HPと会員メールにてご案内いたします。※詳細は次号会報にてお知らせいたします。
 - ⑥第24回出版白門会総会
7月中旬
会場：出版クラブ(神保町)4階
会費：6,000円
※後日、出欠確認を兼ねたご案内をお送りいたします。
- 行事に関するお問い合わせは、下記メールでご連絡ください。
E-mail: pub.hakumon@gmail.com
なお、上記記事のほか、皆さまの仕事に役立つ企画、あるいは懇親の企画を検討中です。



出版白門会ホームページQRコード



●基本方針

1. 会員ニーズに応える活動による、会員満足度の向上
2. 中央大学、学員会、他支部との連携強化
3. 会費徴収促進による、財政の健全化

第23回 総会報告

令和4年7月15日(金)3年ぶりに千代田区神田神保町の出版クラブ会館に集まり、清川 昭 中央大学常任理事、野口 昇兵 中央大学学員会副会長の2名を来賓に迎え、会員29名の出席の下、第23回定期総会が開催された。今年の新年会ではリアル開催を計画・発表を行った直後にコロナ第6波の到来で急遽中止とせざるを得なくなり、その反省から半年間にわたる幹事会での慎重な議論の結果でのリアル開催断行であった。

結果、コロナ第7波直前の悪天候にも関わらずゲスト含めて総勢32名も集まる盛会となった。

総会は風間会長の進行により、令和3年度事業報告、決算報告、令和4年度役員、事業計画、予算の5議案について報告・提案が行われ、全議案が原案通り承認された。役員改選では、6名の新役員が誕生した。

会長に竹林 聡さん(図書館流通センター)、副会長に一戸 裕子さん(羊土社)と森岡 憲司さん(中央社)の2名、副幹事長に阿部 信行さん(万引防止出版対策本部)、書記に高木 浩行さん(元トーハン)、幹事長に齋藤(エデュプレス)が就いた。

併せて前会長の風間 賢一郎さん(元中央社)、前副会長の鹿谷 史明さん(ダイヤモンド社)と森 武文さん(講談社)が顧問に就任された。

議案終了後、竹林新会長以下新役員から所信表明の挨拶があり、参加者全員より期待を込めた温かな拍手が沸き起こり、就任を祝った。

第二部の懇親会は、感染防止に配慮し、初めて着席での開催となったが、来賓の中央大学清川常任理事から主に茗荷谷、駿河台新校舎について、中央大学学員会野口副会長から主に学員会の直近の活動について、中央大学への熱い思いを込めたご挨拶をいただき、それを受けた風間前会長から、出版白門会を今後更に盛り上げていこうとの更熱い乾杯の音頭があり、3年ぶりのリアルでの懇親会がスタートした。

今回の懇親会では、恒例のクイズ大会など人と人が触れ合うイベントが行いづらい状況下であり、また久しぶりに会う皆様の近況を知りたいという思いから、初の試みとして全参加者による1分間スピーチを行った。スピーチでは会員方々のこの3年間の新たな活動やアグレッシブな取組に大いに刺激を受けたり、冗談交えての楽しい話で盛り上がりたりと会は大盛況となった。

その中で会員の古寺雄大さん(サイゾー)の紹介で、ゲストとして初参加いただいた現役学生の中村 晴香さん(文学部人文社会学科4年生)からの自己紹介もあり、盛大な歓迎の拍手が沸き起こった。

数年ぶりの懐かしい再会で、話が尽きない中、折角皆が集まったのだから応援歌を歌おう!との声が上がリ、当初予定の無かった「フレフリー中央!」のエルを土屋会計監査のリードにて行い、会は最高潮に達し、続いて一戸副会長による、竹林新会長と共に会の更なる発展を祈念する中締めにて、名残を惜しみつづ閉会となった。



2023年新年会ご案内

コロナ禍の影響で2021年度の新年会は「Zoom開催」、2022年度は残念ながら中止となりました。

「コロナ禍第7波」が終息し年末には「第8波」到来と囁かれておりますが、3年ぶりの「リアル開催」を行う予定です。

7月には無事第23回総会をリアルで開催できましたので、新年会も感染対策を行った上で開催いたしたく思います。

- ・会場内では「密」を避ける工夫
 - ・参加される方は「ワクチン接種(3回)」必須及び「不織布マスク」の着用
 - ・「ワクチン接種(3回)」が都合によりできない場合には簡易PCR検査の推奨
- など、会員の皆様にはお手数をおかけしますが、何卒ご理解とご協力いただけますようお願いいたします。

★日時

2023年1月20日(金)18時30分～

★内容

第1部 新春講演会 講師 中川順一氏(1983年文学部卒)

第2部 懇親会

★備考

皆様の安全を考え、「二次会」は開催いたしません。

※コロナ禍の状況によっては中止になる場合がございます。



出版白門会ホームページアドレス <http://pub-hakumon.jimdo.com/>

facebook 出版白門会サイトへのアクセスは検索サイトの「出版白門会(中央大学学員会職域支部)」から…



白門太陽傳

戦いに挑んだ強者たち〈3〉

この胸の落雷

～ジャンボ鶴田という旅路～

志賀 コージ (しが こーじ)

まるで女の子のようだった赤ん坊は、友美(ともみ)と命名されました。成長するにつれて目を見張るような体躯となり、高校生の時には、地元で広く知られる花形のスポーツ選手となります。

中央大学法学部に進むと、高校から引き続きバスケットボールに熱中します。やがて彼の心に「オリンピック」の文字が灯り始めるのです。

バスケでは五輪出場は難しいと、1年で退部した彼の瞳は、レスリングへと向うのです。その1年半後には、アマレスの全日本王者となり、1972年のミュンヘン五輪への出場をも掴み取るのでした。

天才と言うほかはありません。

輝かしい実績と共にジャイアント馬場に見込まれてプロレスに身を投じた友美は、「ジャンボ鶴田」として大きく翼を広げ、「正統派プロレス」の王道を歩み始めるのです。レスラーに必要な能力を全て持っていると呼ばれた彼は、またたく間にトップレスラーへと成長します。一方で、その心優しさが唯一の欠点とも言われました。

“完全無欠”、“怪物”の異名を取りながら、付き人や後輩を必ず君づけて呼んだジャンボ鶴田。196cmの偉丈夫にして毛虫に縮み上がったジャンボ鶴田。あの船妻のようなバックドロップを初めて見た瞬間のように、彼との唐突な別れは、雷に打たれたような衝撃でした。

輝きを残して忽然と消え行くのが“天才”というものでしょうか。49歳という若さでその旅路を終えてしまった心優しき王者。今でも、リングに向かう時の彼のテーマ曲であった『チャイニーズ・カンフー』を聴けば、込み上げるものがあります。



志賀 コージ (しが こーじ)

1958年東京生まれ。イラストレーター、エッセイスト。数々の名作映画から人生を学ぶ。心打つ映画に触発され10代から描き続けているスタアの似顔絵はゆうに千枚を超える。近年は名作映画の魅力と共に、あらゆるエンターテインメントの芸術的遺産と感動の数々を、イラストを通して伝えることをライフワークとしている。(著書)『映画スタア似顔絵 昭和館 シャイでクールでお熱いのが大好き』、『映画スタア似顔絵 昭和・平成館 続シャイでクールでお熱いのが大好き』(いずれも里文出版刊)

古谷一行君を悼む

昭和三九年法卒 志村 昌也

古谷一行君がなくなった。肺癌を克服し舞台に復帰したが、胃潰瘍と思っていたのが胃がんで、全摘手術をしたらしいと週刊誌に報じられた。古谷君の同級生の大森君に連絡してもらい状況を聞いた。少し体調を取り戻し食べられるようになった、と大森君が本人と電話で話して連絡してくれたのは、八月中旬だったのに悲しく残念な結果となっていました。

昭和37年古谷は中大入学とまもなく演劇研究会(劇研)に入会した、私は2年生で照明専門だったが、彼はそこから役者の気配のある下級生だった。彼は2年生のころから俳優座の研究生になり、劇研より養成所の方が忙しかったようだった。彼が3年の時中野公会堂で『炎の人ゴッホ』の公演があり彼は主役のゴッホを演じた、学生演劇では名演の評判だった。私は卒業して山梨の会社に就職していたが、休んで中野公会堂へ駆けつけた。

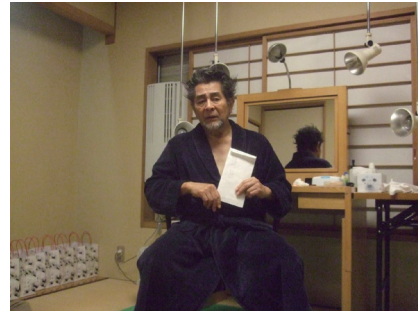
15年ほど前から少しずつ暇ができたので劇研OBで古谷の芝居を見る会をするようになり、私も何回か芝居を見、楽屋をたずねた。彼と楽屋で話した後は、お決まりのOB会が常だった。古谷がこのOB会に合流できることはめっ



たになかったがしばらくこの会が続いた。

ここに乘せた写真は、2018年明治座の「仮縫」のポスターで壇れい、高橋恵子、古谷一行の豪華役者の公演で、この時の楽屋訪問が最後になってしまった。その後、古谷の出演芝居が少なくなったのは、体調不良だったのかも知れない。

2020年の正月偶然に古谷君のご家族と会う機会があっ



た、1月2日 私は恒例の家族食事を、目黒でやっていたらそこに古谷一家がやってきた。息子さん夫婦が古谷に健康回復を祝ってくれるのだと、孫と一緒に幸せそうなじいちゃん振りだった。

後輩を先に送るのはつらいことですが、お別れの会も計画されるようなので、OB会で「さよならいい男」と言いに行こうと思う。さよなら一行!!

2022年10月16日(日) 地図を通して知る東京第11回 - 石神井公園界隈 -

最近の天候不順な空が、絶好の「街歩き日和」になりました。

出版白門会としては、実に3年ぶりの企画になりました。コロナ禍も徐々に改善され日常に戻ってきた感じです。今回の街歩きは小竹顧問にコーディネートをし、白門39会/白門東京練馬区支部の生田様にご案内をいただきました。

11時に石神井公園駅前に集合→お昼ご飯を仕入れ→石神井池畔を左回りで散策→練馬区立石神井公園ふるさと文化館→三宝寺池畔を右回りで散策→ふるさと文化館分館→<屋敷>→厳島神社→石神井氷川神社→石神井城址→石神井池という流れで存分に「石神井公園」を楽しみました。

ふるさと文化館分館には「練馬ゆかりの文士」の紹介がありました。太宰治と競うように作品を発表した檀一雄の生涯が詳しく解説されていました。檀一雄の他には、真鍋呉夫・草野心平・前田純敏・坂口安吾・五木康祐・庄野潤三・松本清張と蒼々たる文士が石神井周辺に居を構え執筆していたようです。石神井公園は都心とは思えないほど緑多く自然豊かな場所なので文士に好まれるのも頷けます。

天気にも恵まれ、生田様の素晴らしいご案内をいただき、楽しいひと時を過ごしました。

(広報委員: 北村信治)



白門同窓生の本

『奨学金、借りたら人生こうなった』 千駄木雄大 (著)、990円 (税込み)、扶桑社刊

本書は東洋経済オンライン上で通算2000万PVの人気連載をまとめたものである。(同連載は今後も続いていく予定)。

今や学生の二人に一人が奨学金を借りる時代になっているのに、奨学金の種類(実に多様な奨学金制度がある)や、それぞれの条件、メリット、デメリットについての情報が少なく(給付型奨学金については「ガクシー」という情報サイトが立ち上がっている)、本書ではそれらを分かりやすく解説している。

借金=悪・後ろめたい、という感覚が残っている日本では、奨学金についてもネガティブな印象を持っている人が多いようで、メディアでも借金で苦しむ、奨学生のその後の人生をことさら強調した記事が多々ある。しかし、ほとんどの奨学生は、本書で紹介されている、奨学金を借りた14人の人たちのリアルな報告のように、総じて勤勉であり、奨学金という借金を抱えながらも真面目に生きている。奨学金を借りたことで、お金の仕組みを若いうちに学べ、その後の人生でそれが強みになった人も多い。

日本経済の衰退による慢性的な不況が続くと予想される

中で、大学、大学院、専門学校等での勉学を目指す人にとってありがたいことに、条件付きとはいえ各種の「給付型奨学金」も増えてきている。

奨学金を受けることを後ろめたく感じるのではなく、自分への投資として普通に思えるためにも、本書が高校生時代に読まれればと思う。(広報・丹田)

■著者・千駄木雄大さん(本名、古寺雄大)は出版白門会の会員です。その著者からのメッセージ

本書はネガティブなイメージの強い奨学金を借りた14名に話を聞き、「奨学金を借りたことで、価値観や生き方に起きた変化」を浮き彫りにしていきます。

登場人物は「日本育英会」だった時代に貸与した者もいれば、現在「給付型奨学金」を毎月給付してもらっている現役の大学生までさまざまです。彼らの奨学金を借りるに至った理由や、その返済の苦労をライフストーリー形式で紹介していき、現代日本の奨学金制度が抱える問題点と評価すべき点を見出していきます。

また、本書は「東洋経済オンライン」に連載された記事の転載だけではなく、「奨学金=借金」というイメージはいつから始まったのかを、戦時中に発行された雑誌まで振り返りながら考察していく「奨学金報道の変遷」、「サツダイ奨学金担当」というYouTube

チャンネルを運営している地方私立大学職員の水戸康徳氏と、奨学金情報サイト「ガクシー」と奨学金業務管理システム「ガクシーAgent」を提供するガクシー代表取締役・松原良輔氏が奨学金をめぐる諸問題を話し合った「専門家対談」、さらには実際に今、奨学金を借りている現役の学生たちがこれから返済していく不安や、コロナ禍の学生生活を振り返る「大学生座談会」など書き下ろしページも追加されています。

これを読んで学生時代の奨学金を借りていた同窓生のことを思い出してもらえればと思います。



学員交歓

7月10日、白門57ネット支部の落語会がZOOMを活用したリモート形式で開催された。リモートならではの北海道、大阪、九州からの参加者も含め48名が参加した。友

好支部にもお誘い戴き、当会からは小竹顧問、阿部副幹事長が参加。林家つる子さんの、女将さん目線での「子別れ」を堪能し、その後のオンライン懇親会では、57

ネット、他支部との交流を深めた。

(会長：竹林 聡)

新役員挨拶

●会長・竹林 聡

出版白門会は、2000年10月21日、駿河台記念館で77名の会員を集め、設立総会を開きスタートを切りました。今年で早22年目を迎えます。初代上灘会長から、濱田会長、風間会長と禪は引き継がれ、今回、私に渡された禪は、思いの外、重たいものであります。

業界の大先輩である歴代会長が築き上げてきた出版白門会も、2020年以降、コロナ禍で様々な制限の下での活動を余儀なくされ、組織の弱体化、求心力の低下は否めないと感じています。そんな状況での会長就任にあたり、私の使命は、「会の永続的な発展を支えるしくみ作り」だと考えます。会員の高齢化が顕著となっている中、若手会員、更には新入社員が入会する為にどうするか、リアルとオンラインの使い分け、或いはハイブリッド形式の検討など、課題はいくつもありますが、それを乗り越えて行かなければ、会の発展はありません。会員皆様のご意見、ご提案、叱咤激励、そしてご協力が、会を前進させる原動力です。何卒、宜しくお願い申し上げます。



●幹事長・齋藤 毅

2014年7月に当時仕事で大変お世話になっていた羊土社一戸社長にご紹介いただき、出版白門会に入会して早8年。参加当初はこの会でなければお目にかかれない、出版界重鎮の経営者やスペシャリストの皆様と会うことに緊張しましたが、同窓というだけで、何の垣根もなく笑話が出来たり、本音のアドバイスをいただいたり、気づいたら、本会の会議やイベントに参加することが今では私個人の大変貴重な時間となっております。

この度は長年幹事長を務められた竹林会長の後任として幹事長を拝命いたしました。役員・幹事会委員の皆様と一致団結し、出版白門会がよりよい会に発展できますよう、微力ながら務めさせていただきたいと思っております。どうぞ、よろしく願いたします。



●副会長・一戸 裕子



出版という同じ世界で仕事をする者が、力を合わせて励まし合える場があるというのは素晴らしいことだと思います。

私は40年ほど前に羊土社という医学書の出版社を立ち上げ、出版を続けてきました。

地味ではありますが、社会に貢献できる仕事だと思っています。

これからも皆さまと共に、さまざまな社会状況に負けず、明るく楽しく良書の出版を続けていきたいと思っております。今後とも何とぞよろしくお願い申し上げます。

●副会長・森岡 憲司



博多生まれの茅ヶ崎育ち、現在は浦和在住。小学4年生時に茅ヶ崎へ転校して以来、コロナ禍で観戦自粛になるまでの45年間、正月は湘南海岸で箱根駅伝を沿道観戦。自分自身は中大の黄金時代はリアルで見えてませんが、総合優勝を果たした第72回大会も、現在の藤原監督が山登りを制して往路優勝した第77回大会も体験。黄金期の再来に向けて着実に力をつけている胸のCマークを、来年の正月は是非とも湘南海岸で見たいと念願。

●副幹事長・阿部 信行



「来たれ、白門の強者！」という極めて古めかしい意図で冒頭を飾りますが、古い革袋に新しい酒を注いで古い革袋を新しい革袋に生まれ変わらせる同志を募ります。そして探し求めて参ります。出版、書店も、流通も求められるものはリニューアルではなくてリノベーション、あるいは変容・溶融からの再生でありましょう。混沌をこそ主戦場とし生き抜こうとするエネルギーを提供し続ける出版白門会でありたいですね。

●書記・高木 浩行



地方勤務のため、幹事会の役員は4年ほど離れていましたが、このたび書記としてまた一緒に働かせていただきます高木浩行です。

先日のひさびさのリアル総会の熱気は本当にうれしかったです。「コミュニケーションをとるってことは、皆さん方とその場にかかわる会話による空気の振動なんだ」とあらためて思いました。これからもこの熱い気持ちを忘れずに出版白門会、そして母校の応援者として日々活動してまいりたいと存じます。

令和4年度役員

会長	竹林 聡 (図書館流通センター)	書記	立石将太郎 (茨城口ポッツ)	顧問	小竹 正倫 (地図協会)
副会長	一戸 裕子 (羊土社)		高木 浩行 (元トーハン)	顧問	朝妻 伸雄 (集英社 OB)
	森岡 憲司 (中央社)	会計	島崎 修 (ディスカバリー)	顧問	風間賢一郎 (中央社 OB)
理事	安部 英行 (学事出版)		藤原 隆通 (日経 BP)	顧問	鹿谷 史明 (ダイヤモンド社)
	白石 紀一 (檜書店)	会計監査	土屋 隆一 (I P Cビジョン)	顧問	森 武文 (講談社)
		組織委員長	山本 興陽 (ダイヤモンド社)		
幹事長	齋藤 毅 (エデュプレス)	事業委員長	堀川 隆 (メトロポリタンプレス)		
副幹事長	阿部 信行 (万引防止出版対策本部)	広報委員長	北村 信治 (メディックメディア)		

決算報告・新年度予算

中央大学学会出版白門会 令和3年度決算報告

自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日

収入の部		(単位:円)
科目	決算額	摘要
前年度繰越金	1,089,101	前年度からの繰越金
会費収入	0	年会費5,000円×0人(今年度未徴収)
各種会費収入	0	
(内訳) 総会費	0	
新年会費	0	
その他	0	
学員会補助金	100,000	支部活動支援費(100,000円)
寄付	1,460	幹事寄付
雑収入	11	会計口座利子
総計	1,190,572	

支出の部		(単位:円)
科目	決算額	摘要
事業費	201,555	総会関連費用、新年会関連費用、会報製作費など
(内訳) 総会費	37,329	書 面 決 議
理事会費	0	
新年会費	28,088	案内状発送費など
幹事会費	0	
会報製作費	93,478	会報40号、41号製作費、発送料など
その他事業費	42,660	年会費納入者向け図書カード代、ZOOMアカウント料など
事務費・雑費	0	
慶弔費	0	
交際費	0	
繰越金	989,017	次年度への繰越金
総計	1,190,572	

中央大学学会出版白門会会計
島崎 修
藤原 隆通
中央大学学会出版白門会会計監査
土屋 隆一

中央大学学会出版白門会 令和4年度予算

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

収入の部		(単位:円)
科目	予算額	摘要
繰越金	989,017	前年度からの繰越金
会費	263,000	入会金1,000円×3人、年会費5,000円×50人、法人会費10,000円×1法人
各種会費	560,000	総会費、新年会費、その他事業参加費他
(内訳) 総会費	255,000	6,000円×30人、2次会費など
新年会費	255,000	6,000円×30人、2次会費など
その他会費	50,000	その他事業会費
学員会補助金	110,000	支部活動支援費100,000円、講師料補助10,000円
寄付金	10,000	幹事寄付など
雑収	11	会計口座利子など
合計	1,932,028	

支出の部		(単位:円)
科目	予算額	摘要
事業費	871,200	会報製作費、総会関連費用、新年会関連費用、その他事業活動費など
(内訳) 総会費	320,000	会場費、案内状等印刷代・発送費など
理事会費	16,200	
新年会費	350,000	会場費、案内状等印刷代・発送費など
幹事会費	5,000	
会報製作費	80,000	年2回(4月、10月)発行予定
その他事業費	100,000	各種事業費、ZOOMアカウント料など
事務費・雑費	12,000	事務用品、交通費、振込手数料等
慶弔費	10,000	
交際費	30,000	学員会出席祝儀など
繰越金	1,008,828	次年度以降に繰り越すべき会費等
合計	1,932,028	

中央大学学会出版白門会会計

告知版



■①出版白門会ホームページのご案内

アドレスは <http://pub-hakumon.jimdo.com/> です。Google や Yahoo といった検索サイトで「出版白門会」を検索すると上位にヒットしますので、そこからのアクセスも可能です。

■②出版白門会事務局へのご連絡は下記メールアドレスをご利用ください。

E-mail: pub.hakumon@gmail.com です。

■会費未納の皆様へ (年会費金額¥5,000)

①同封の振込用紙にて、もしくは下記口座へお振込みをお願いいたします。

郵便振替口座記号番号 00180-8-600659

加入者名 中央大学学会出版白門会

振込用紙がなくても、直接郵便局の窓口や ATM でも手続きができます。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方は、ゆうちょダイレクト (パソコン、携帯、スマホなど) もご利用いただけます。

②他行 (銀行など) からの振込みをされる場合は下記口座をご指定のうえ、手続きして下さい。

ゆうちょ銀行 当座預金

店名 (店番) 〇一九 (ゼロイチキユウ)

口座番号 0600659

口座名義 チュウオウダイガクガクインカイシュッパンハクモンカイ

出版白門会は皆様の会費のみで運営しております。ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。

編集後記

「コロナ」という聞きなれない病名が世間に出て3年目を迎えようとしています。夏には「第7波」が訪れました。この後いかなるカウントまで進むのか見当もつきません。「終焉」には程遠い向きもあり明らかにwithコロナの世界、と感じます。

聞くところによるとwithコロナ世代の大学生の就職活動で「大学生活での思い出は?」「大学生活で何を感じましたか?」といった質問に窮しているとのこと。遠隔授業での受講はあったが部活やサークル活動といった課外活動が縮小したことにより「活動や人間関係」に影響が出てしまいました。大学内でのリアルな学生生活があるがその「愛校心や愛着」が芽生えると思います。

このようなwithコロナ世代を含む若手学員の活性化は学員会の将来構想としても喫緊の課題と言えます。本年度の学員会で「常任幹事/若手委員会委員長」を拝命しました。「何をどうすべきか?」という答えは直ぐには出せそうにはありませんが、学員それぞれが思う「母校への思い」を束ねていこうと思います。

(北村)